




ライフ | **僕が違法薬物で逮捕されNHKをクビになった話** #医療・病院 #薬物依存症 2020/03/01 11:00

# 周囲に「しんどい」と言えない人ほど薬物にハマりやすい

"人に頼るのがヘタ"だから薬をやる

PRESIDENT Online

 塚本 堅一  
元NHKアナウンサー

 松本 俊彦  
精神科医



4



1



0



1 2 3 次ページ ▶

## ▼関連記事

- [\[前編\] 覚醒剤で逮捕された芸能人が「ありがとうございます」と話すワケ](#)

違法薬物にハマる人にはどんな特徴があるのか。薬物依存症の治療に取り組む松本俊彦医師が、危険ドラッグの製造・所持で逮捕歴のある元NHKアナウンサーの塚本堅一氏との対談をお届けしよう――。(後編/全2回)

※本稿は、塚本堅一『僕が違法薬物で逮捕されNHKをクビになった話』(KKベストセラーズ)の一部を再編集したものです。



この記事の画像 (4枚)

## 「反社会的で、嘘つきで、どうしようもない」のか？

**【松本】** 世間一般の人は、薬物で捕まった人や薬物依存症の人を「反社会的で、嘘つきで、どうしようもない」と思いがちです。でも、多くの薬物依存者と出会ってきた立場としてつくづく思うのは、“いい人”がたくさんいるということです。世の中にはいい人も悪い人もいっぱいいるけど、依存症と無縁の一般人とも何ら変わりはない。「クスリが好きなのがたまに瑕」程度の感覚で、いい人だと感じる人は本当に多いんです。

**【塚本】** 実際、私も依存症回復施設に通ってみて、「依存症患者さんも普通の人なんだな」と感じる機会も多かったです。一見、我々の生活と変わらないような暮らしをしている人が、依存症からの回復を目指している。この事実を、彼らに会って見ないと気づけないかもしれません。

**【松本】** 本当にそう思います。もっと世間の人たちが、彼らの存在に気づいてくれたらいいですね。塚本さんにお会いしたときも「ああ、いい人だな」と感じましたし、「優秀なアナウンサーだったんだろうな」と純粋に感じました。だから、日本の厳しい偏見に晒されるなかで、それを武器にして生き延びて欲しいんですよ。

そんな風潮をどうにかして普及できないものかと、かねてから僕や「ギャンブル依存症問題を考える会」の田中紀子さんは考えていました。そういう意味では、塚本さんと会ったときに、モデルケースとして「オイシイ人が来たな」という打算もありましたけどね（笑）。

**【塚本】** そうだったんですね（笑）。





1 2 3



ライフ | [僕が違法薬物で逮捕されNHKをクビになった話](#) #医療・病院 #薬物依存症 2020/03/01 11:00

# 周囲に「しんどい」と言えない人ほど薬物にハマりやすい

"人に頼るのがヘタ"だから薬をやる

PRESIDENT Online



塚本 堅一  
元NHKアナウンサー



松本 俊彦  
精神科医



4



1



0



◀ 前ページ 1 2 3

## 安心して愚痴をこぼせる環境がない

**【塚本】** 自助グループに行ったとき、みんな平然と「しんどい」と口に出していたので、当初、すごく新鮮だったし不思議でした。でも、よくよく考えると「しんどい」と言える場所って、我々の生活ではほとんどないですね。

**【松本】** うっかり口に出そうものなら説教されちゃいますよね。

**【塚本】** そうなんです。会社で「しんどい」なんて言ったら、「いや、もっと頑張れ」と返される可能性もあるし、評価が悪くなるリスクもあります。

**【松本】** 安心して愚痴をこぼしたり、泣き言を言えたりすることが許される場所がないですね。会社の産業医や産業カウンセラーがいる場所だったら大丈夫かと思いきや、勘の鋭い人は「裏で経営陣と繋がっているのでは？」と疑ってしまいます。僕だったら絶対にそう疑うし、相談できませんよ。ましてや「違法薬物をやめられないんです」なんて口が裂けても言えませんよね。

**【塚本】** 施設に通っているとき、アルコール依存症で「産業医に勧められて施設に入った」という人がいました。これは素晴らしいことだと思いました。さらには、「産業医に勧められてアルコール依存症から回復した」といった内容を社内広報で取り上げるケースもあるそうで、感心しました。ただ、さすがに薬物となると難しいですね。



写真=永井 浩



## 薬物のことをオープンに相談できる場所が必要だ

【松本】EAP（従業員支援制度）のようなメンタルヘルスは、アルコール依存症の支援から始まったという歴史があります。ようやく日本も常識的になってきたと思いますが、薬物の場合はまだ無理ですね。

よく、薬物の問題を抱えている会社員の診断書を出すことがあります。「薬物依存」とは書けません。「うつ状態」などと診断名とは言えない表現で濁すんですが、それを見た産業医が僕の名前をネットで検索して「この先生って薬物依存の専門じゃない？」と突っ込まれることもあるようです。

【塚本】薬物依存から抜け出そうと通院していても、その通院歴が健康保険でバレてしまうのでは、と不安になる人もいる。心配を取り除きたいのに、通院そのものが心配の種になってしまうと、治療に繋がるだけでも大変です。

【松本】結局、いまの日本ですぐに通院を選択できる人は、残念ながら「あらゆるものを失って望みがなくなった人」くらいなんです。だから、もっとクスリの話に限らず、日々の困りごとについて、安心して相談できる場所を提供することが必要だと思います。

何かを相談する際、薬物に関わる話題が出てくることも当然ある。でも、ここで薬物のことを隠して相談したらカウンセリングにならないので、すべてを隠さずにオープンに話す場所があれば、明らかに乱用者の進行を食い止めることができると思う。ただ、いまの日本だと難しいかな……。悩ましいですね。

### ▼関連記事

- ・ [「前編」覚醒剤で逮捕された芸能人が「ありがとうございます」と話すワケ](#)

### ▼編集部おすすめの関連記事

[覚醒剤で逮捕された芸能人が「ありがとうございます」と話すワケ](#)



塚本堅一『僕が違法薬物で逮捕されNHKをクビになった話』  
(KKベストセラーズ)

(構成 = 松本晋平)

コメントする